撮影のために、私は何度となく三峡ダムを訪れている。それでもなお、『長江にいきる』には深い感動を覚えた。この映画は霧深い長江のほとりへと私を連れ戻してくれたばかりか、ビンアイという偉大な中国人女性に出会わせてくれた。そしてこの作品は権力と自由、生存の厳しさとの直面、生きる勇気を表現した映画である。ただの三峡についての映画ではない。急速な変化を背景とした、中国人の精神の歴史そのものだ。

——**ジャ・ジャンクー**（映画監督『長江哀歌』『二十四城記（原題）』）

吹きさらしの坂上の空き地で、小役人の饒舌に短く強く反駁するときの硬い表情。それと逆に、夜の教室に息子を訪ね、小遣いを手渡しながら語りかけるときの気遣いに満ちた顔。そして、川縁で、娘の頃のささやかな愛の思い出を吐露するときの笑顔。三峡ダム建設をめぐる映画は多々あるが、『長江にいきる』ほど深く、一人の女性の姿を掘り下げたものはない。そこから大地に根をおろした中国女性の、何ものにも屈しない心根が浮かびあがる。

——**上野昂志**（映画評論家）

山形国際ドキュメンタリー映画祭2007
アジア千波万波 小川紳介賞（グランプリ）/コミュニティシネマ賞2007

長江にいきる 秉愛（ビンアイ）の物語

つぶされようと、人生には勝つ

長江のほとりで家族とつつましく生きるひとりの女性、ビンアイ。働き者の彼女にとって、畑を耕しながら育ち盛りの子供たちと暮らし、病弱な夫と連れ添うことは、滔々(とうとう)と流れる川のように十分な幸福だった。しかし、政府から降ってきた三峡ダム建設に伴う移住命令によって、平穏な生活が崩れ始める。役人の理不尽な脅迫や甘い言葉にビンアイは頑固さで抵抗するしかない。「何としても生き抜く」「わたしは強情なのよ」と笑顔で言う彼女。だが、そんな言葉とは裏腹に一家は次第に追いつめられていくのだった…。

中国の栄光の陰で営まれる、人として、あるべき生き方

オリンピックと並ぶ中国、百年来の夢、三峡ダムが2009年に完成する。300億ドルの国家プロジェクトは140万人もの住まいと田畑が代償となる。本作はそんな国の発展の影で取り残されてきた人々と、権力に立ち向かう凛とした女性の姿を見つめる。

監督は日本に13年間滞在しドキュメンタリー映画と出会い、映画制作を志した女性監督、フォン・イェン。初長編「長江の夢」以来、中国の底辺に生きる人々の暮らしを見つめ続けている。そして、その慈愛に満ちた眼差しを映画音響の第一人者、菊池信之による、繊細かつダイナミックな空間づくりが支えている。——ここに映し出されるのは、辺境の地においても、人としてのプライドと優しさが活きている、人間本来の姿だ。

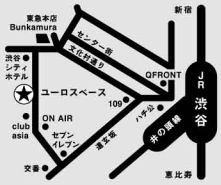
【……三峡ダムについて……】

長江は人々から「母なる川」として親しまれる一方、たびたび洪水を繰り返し、治水を目的とするダム工事が、今世紀初頭の孫文の時代より検討されてきた。1992年ダム建設の計画が可決されて、実現に向けて動き始め、長江で最も風光明媚な三つの峡谷がある場所に築かれることから、「三峡ダム」と命名された。貯水量393億立方メートル、発電能力1768万キロワットという世界最大のダムである。完成時、水深はかつての10メートル未満から110メートルになるため、沿岸地域に住む140万人が移住を余儀なくされた。建設にあたっては、生態系への影響の懸念や、「三国志」時代の史跡が水没することへの批判など、反対意見も強かったが、経済的メリットが優先され、このプロジェクトは承認され、2009年に完成する。

監督：フォン・イェン（馮艶）　音響設計：菊池信之『サッドヴァケイション』『SELF AND OTHERS』
中国｜2008年｜DVカム｜117分｜原題：秉愛
配給協力：コミュニティシネマ支援センター
配給：ドキュメンタリー・ドリームセンター

www.bingai.net

2009年2月下旬 春節ロードショー

特別鑑賞券¥1400発売中!
劇場窓口、都内プレイガイドにてお求め下さい
（当日：一般¥1700　大学・専門学校生¥1400の処）
◉劇場窓口でお買い求めの方に"長江に佇む"中国製オリジナルポスタープレゼント!（限定数）

ユーロスペース
EUROSPACE
渋谷区円山町1-5
（渋谷・文化村前交差点左折）
☎03-3461-0211
www.eurospace.co.jp